

調査問題の内容

学習指導要領に示されている各領域に基づき、昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫かどうか説明するための視点を選ぶ問題や水溶液を凍らせた物について、「試してみたいこと」を基に見いだされた問題を書く問題、夜の気温の変化について、結果の見通しについて表したグラフを選ぶ問題などが出題されています。

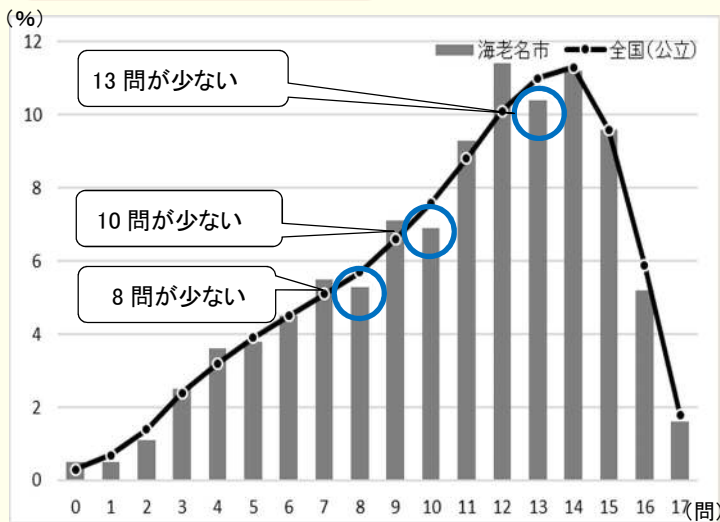
全体の結果

	海老名市	神奈川県（公立）	全国（公立）	全国との比較
平均正答率	62.9%	63.0%	63.3%	-0.4
平均正答数	10.7問 /17問	10.8問/17問	10.8問 /17問	-0.1

平均正答率…平均正答数を問題数で割った値の百分率。

正答数分布グラフ

(横軸:正答数, 縦軸:割合)



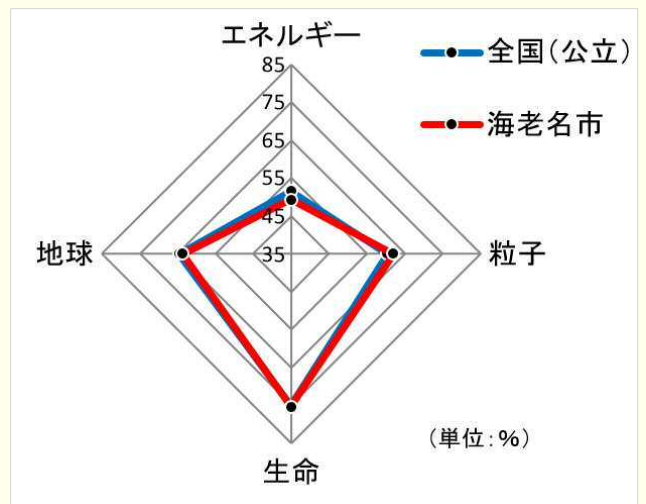
* 正答率 50%以下(0~8 問)の児童の割合は 27.3%です。【全国は 27.2%】

* 正答率 80%以上(14~17 問)の児童の割合は 27.6%です。【全国は 28.6%】

* 中央値は 11 問です。【全国は 11 問】

中央値…正答数を大きさの順に並べた時に真ん中に位置する値。

学習指導要領の領域等の平均正答率



「粒子」の領域は全国と比較して、やや上回っています。「エネルギー」の領域は全国と比較して、やや下回っています。

分類・区分別集計結果

分類	区分	対象問題数	平均正答率 (%)			平均無解答率 (%)		
			海老名市	全国(公立)	全国との比較	海老名市	全国(公立)	全国との比較
学習指導要領の領域等	エネルギー	4問	49.3	51.6	-2.3	3.9	4.6	-0.7
	粒子	5問	61.9	60.4	1.5	4.5	5.3	-0.8
	生命	5問	75.3	75.0	0.3	1.7	1.5	0.2
	地球	5問	63.7	64.6	-0.9	3.8	4.0	-0.2
問題形式	選択式	11問	66.5	66.8	-0.3	1.6	1.4	0.2
	短答式	3問	69.1	66.2	2.9	5.5	7.0	-1.5
	記述式	3問	43.7	47.3	-3.6	7.4	8.3	-0.9

海老名市の結果についての分析

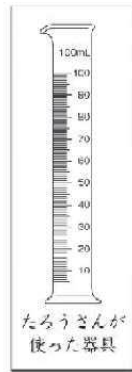
- 平均正答率において、全国平均と比較すると-0.4ポイントとなっており、大きな差はみられません。
- 正答率が80%以上のものは2問、70%未満のものが11問あります。また、正答率が全国平均よりも高いものが6問あります。
- 短答式の問題の正答率については、全国と比べ+2.9ポイントとなっています。
- 問題形式から見ると、「記述式」の平均正答率が43.7%と最も低く、全国と比べ、-3.6ポイントとなっています。

全国の正答率と差が見られた問題の例

小学校理科のすべての問題は、国立教育政策研究所のホームページで見ることができます。

(1) たろうさんは、実験で使用する砂糖水と食塩水をつくるために、水50 mLを右のような器具を使ってはかりとることにしました。

たろうさんが使った器具の名前を書きましょう。



2 (1) 一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く。

趣旨 メスシリンダーという器具を理解している。

正答 メスシリンダー

◇この問題の正答率

海老名市	75.9%
全国（公立）	67.8%
（全国との比較 +8.1）	

考察

- 問題と観察における視点の双方について、しっかり見通しをもち、読み取ったことを正しく解答できることが結果に表れています。
- 実験で得た結果については理解していますが、実験全体を分析し、自分の考えをまとめる力をつけていく必要があります。

指導の改善にむけて

◆ 実験器具の名称を正しく指導し、伝え合うこと

○児童が実験の予想や結果、考察について話し合ったり、伝え合ったりする際には、実験器具の正しい名称を伝え合い、実験内容と実験器具が結び付くように指導します。

◆ 知識を相互に関連付けて、説明すること

- 習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるようにする機会を設定し、深く理解できるように指導します。
- 実験結果を共有すること、考察することに加え、実験内容をしっかり振り返り、自分の言葉でまとめる機会を設定するように授業づくりを行います。